

30 愛 総
平成30年8月21日

愛川町議会議長
小島 総一郎 殿

愛川町長 小野澤 豊



愛川町議会意見交換会における意見等について（回答）

平成30年8月7日付で報告のありましたこのことについて、別紙のとおり回答いたします。

（事務担当は、総務部総務課広報・シティセールス班）

「平成30年度 愛川町議会意見交換会における意見・要望等」に対する回答

No. 1

＜意見、要望要旨＞

「電動アシスト三輪自転車購入費助成制度」について、助成要件が70歳以上となっているが、介護認定を受けた方や、障がいを持っている方など、助成対象の要件を緩和すること。

＜回答＞

本事業は、外出機会の拡大と社会参加への支援、健康・いきがづくり増進を目的として、本年度から開始したものであります。

介護認定を受けた方や障がいを持っている方など、助成対象の要件緩和につきましては、引き続き、町民皆様のご意見を伺いながら、より良い制度設計に努めてまいります。

No. 2

＜意見、要望要旨＞

公園等についても、防犯カメラを設置すること。

＜回答＞

防犯カメラの設置箇所については、主に通学路や幹線道路沿い、交通量の多い交差点等としており、厚木警察署の意見を伺いながら決めております。

公園等への設置については、厚木警察署や施設管理者と協議のうえ、検討をしてまいりたいと考えております。

No. 3

＜意見、要望要旨＞

現在の防犯灯はLEDが主流となっているが、LEDは直進性はあるが、拡散性がなく、変更したことにより暗くなってしまうことも考えられることから、防犯灯の設置基準等を精査し、必要なところに設置をすること。

＜回答＞

本町で設置しているLED防犯灯については、配光レンズを使用することにより、LEDのデメリットである拡散性の弱さをカバーしておりますが、引き続き地権者の同意を得た上で、必要な箇所に設置するよう努めてまいります。

No. 4

＜意見、要望要旨＞

町内循環バスについては、利便性向上のため、狭あい道路も走行可能な小型バスを導入すること。

＜回答＞

「中津西南部ルート」と「中津東部・小沢ルート」については、定員10名の小型

の循環バスを運行しています。

「愛川・高峰ルート」については、乗車人員が多いことなどから、定員35名のバスを運行しています。このルートに小型バスを導入した場合、広い地域をカバーすることになるため、バスを複数用意する必要があり、車両の導入や維持管理に要する経費が多額になるものと見込まれますことなどから、現在のところ、「愛川・高峰ルート」への小型バスの導入は難しいものと考えております。

No. 5

＜意見、要望要旨＞

2号公園には、よくゴミ等が捨てられている状況が散見されることから、良好な環境づくりについて検討すること。

＜回答＞

第2号公園は、日常の維持管理のほか、平成30年度にゴミの散乱しやすいベンチ付近3箇所に美化啓発看板を設置するなど、良好な環境づくりに向けた取り組みを進めているところであり、引き続き、公園利用者のマナー向上について、努めてまいります。

No. 6

＜意見、要望要旨＞

自主防災組織や防災力の向上を図ることを目的とした防災士の資格取得に対する助成金制度のほか、他の防災に関する資格取得に対する助成についても対象範囲を広げていくこと。

＜回答＞

防災に関する資格取得助成については、本年度より実施している防災士の資格取得に対する支援事業の状況や住民等からの要望、他自治体における実施状況等を勘案しながら、調査・研究に努めていきたいと考えております。

No. 7

＜意見、要望要旨＞

シティセールスパンフレット等にクーポン券を再度付けること。

＜回答＞

シティセールスパンフレットへのクーポン券の掲載は、「愛川ブランド認定品」のPRを目的として、平成27年10月の増刷分にて実施しました。

現在、クーポン券については、本年7月に開設した町のファンクラブサイト「愛川町マジいいね！クラブ」の景品として活用しているほか、8月に発行した「行政区・自治会ハンドブック」に掲載をしていることから、それらの利用状況等を鑑みながら、今後の掲載について検討をしていきたいと考えております。

No. 8

＜意見、要望要旨＞

将来の愛川町の活性化を担うリーダーを育成し、感動と記憶を残すため、子どもたちに2020年東京オリンピックの現地体験が出来るよう取り組むこと。

＜回答＞

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、組織委員会では、一般入場券とは別に、全国の小学校と中学校、高校、特別支援学校、自治体単位でチケットを購入できる「学校連携観戦プログラム」を導入し、企画チケットを用意する方針を示しています。

今後、プログラムの運用方法が明らかになった時点で、小・中学校と連携し、その活用について検討をしていきたいと考えております。

No. 9

＜意見、要望要旨＞

高齢者社会を迎え移動手段に困っている人が利用できる乗合タクシー等の導入をすること。

＜回答＞

現在、町では、路線バスの接続や交通不便地域の解消を目的として、町内循環バスの運行をしており、持続可能な公共交通網の形成につながるものと捉えておりますが、乗合タクシー等の新たな移動手段の導入につきましては、地域包括ケアシステムの構成要素の一つである「生活支援サービスの充実」の観点からも、本町に見合った新たな移動手段を研究してまいりたいと考えております。